ともに励まん



２０１９，７，２６（金）
北海道旭川永嶺高等学校３年次だより　第１６号　（通巻 111 号）

開拓者精神～「北海道命名150年」



道内で、何かの儀式や祝典の場で、「北海道民は開拓者精神で」「開拓者魂を忘れずに」なんていうことを述べるお偉いさんがいる。ボクも子どもの頃から、校長先生の挨拶なんかでさんざん聞かされてきた。けれども、子どもの頃からこの言葉には違和感を持ってきた。

この時代のどこに「開拓」や「開拓者」の痕跡があろうか？ホントの開拓農家の何代目かだったら、ホントの開拓団の入植地域だったらば、代々語り継がれてきた開拓の苦労話も伝わっていよう。でも、流れ者移住者の三代目四代目で街場に住む稼ぎ人の子どもに、「開拓者精神を忘れず」と言われてもなんだか胡散臭いと、子ども心に感じていた。このあたり、本州出身の方はどう思っておられるのだろう？　北海道民はいまなお「開拓者魂」を持って日々暮らしているとお思いだろうか？

いまＮＨＫの朝ドラでは、十勝の開拓農家で育った女性がヒロインだ。開拓初代、二代目あたりは相当に苦労もしただろう。そして、みんながみんな成功したわけでもなく、たとえば留萌管内苫前町の奥にあった三毛別地区では、大正時代、集落の人々が次々とヒグマに襲われ７人が死亡する惨劇があり、そこに住む人はいなくなった。知床斜里町では、江戸時代後期に津軽藩士100名が北方警備の任務に就いたが、寒さのため72名が命を落としている。さらに戦前から戦後にかけ同町に開拓に入った人々は、あまりの気象条件のきびしさに耕作地もサイロも放棄。そこを元の原生林に戻そうという「ナショナルトラスト運動」が展開されたりしている。みながみな、開拓者精神でこの大地に打ち勝ってきたわけではないのだ。



けだし「開拓者精神」というのは、言うは易く、行うは難し、だと思う。どんな困難にも歯を食いしばり、退路を断ち、とにかくひたすらに努力をするしかない、悲壮感すらただよう命がけの極限状態。そんな状態に我が身を重ねよと言われても、なんだかなあ。が、それで豊かな大地を切り開いてきた先人はたしかに立派だった。一方で、先住民族であったアイヌの人たちと対等、平等、平和裏に共存共栄できてこなかった歴史もある。

北海道と命名してから150年だそうだ。50年前には北海道「開基」100年を祝った。野幌原生林には「100年記念塔」を建てたが、その後の放置でさびが浸食、倒壊の危機に瀕しているそう。全道各地でも「開基」〇〇年をうたったが、これでは先住民族への配慮がないという議論から、最近では「開基」という言葉は使われなくなった。そこで「命名150年」という言い方をひねり出したのだろう。さらにはその命名の日（なんだか命日みたいだな）、7月17日を「道みんの日」としたのだそうだが、これまた浸透しているのかどうか。

「開拓者精神」という一見きれいで勇ましい言葉の裏には、複雑な歴史が垣間見えるのである。



坂の話

坂、といっても、坂先生のことではない。乃木坂４６だとか欅坂４６だとか、ＡＫＢに端を発した四十数人のアイドルグループシリーズはいまや「坂」を中心活動地に据えて人気を博している。乃木坂というのは東京港区にある乃木神社に通じる坂道だが、欅坂の方は、正確には欅坂という名の坂はないらしい。東京には坂の多い地区があり、かのタモリ氏が東京の坂や地形に詳しいことは有名だ。

さて、全国各地にも有名な坂道は多い。京都清水寺への参道である三年坂、二年坂は去年歩いた人も多いだろう。この名前でのアイドルグループは難しいか。函館なら八幡坂。とても有名なロケーションだが、名前はやや平凡か。ロケーションと言えば広島県尾道の坂はいくつもの映画のロケ地になっている。小樽も坂の多さは負けていない。否、町全体が坂と言ってもいい。平らなところは港の埠頭と建物の中だけかも知れない。船見坂、地獄坂あたりが有名か。地獄坂４６、なんてグループができたら面白い。センターはやはり閻魔大王か。釧路には「出世坂」という坂もある。

かつて好景気の頃、日本全国で新宅地開発が進み、〇〇台、〇〇が丘といった新しい地名があちこちに出現した。そして悲しいことに、相次ぐ大地震の際、こうした造成地で「液状化」現象を招いたところもある。

坂道や台地や丘陵。いったいこれらのなにが人の心を引きつけるのだろうか。

諸君はいま人生の上り坂を上りつつある。元気に、勢いよく、颯爽と、上っていこう！

２歳児あわれ

札幌と仙台とで、相次いで２歳児がその命を絶たれました。かたや虐待、かたや育児放棄とのことです。札幌の子は「詩梨」で「ことり」ちゃん、仙台の子は「陽璃」で「ひなた」ちゃん。どちらも凝った名前、きっと産まれるときにはたくさんの期待と愛情を注がれていた証だと思います。2歳から3歳といえば人生で最もかわいい盛り。それがこうした悲劇に見舞われるにいたった背景には、深刻な事情があったのかもしれません。どちらもお母さんが1人で子育てに奮闘していたようで、育児疲れが理由の一つとも報じられています。子どもが小さいときはかわいい一方で、本当に苦労も多いことから、軽々に批判することは避けなければならないとは思うものの、やはり、なんとかならなかったものかと思わずにはいられません。札幌の事件の方は、つい先日2人の被告に求刑がされました。幼い子どもたちへの虐待や育児放棄、さらにはそれを救済すべき行政機関の対応不足の報道が跡を絶ちません。

将来みなさんもお母さん、お父さんになる人も少なくないでしょう。保育や福祉の方面を志望している人もいます。ちょっとこの問題についても考えてみませんか。



日航ジャンボ機墜落事故

この夏休み期間中には、8月6日、8月9日、8月15日と、先の戦争にまつわる忘るべからざる日が相次ぎます。私は、8月12日という日も忘れ得ない日として記憶しています。これは戦争関連ではなく1985年、「日航ジャンボ機墜落」という、大きな事故があった日です。私が教員になった年、初めての夏休みに起きた事故でした。前日夕方、東京から大阪に向けて飛んだ日航機が消息を絶ち、一晩中、一睡もせずにテレビニュースを見ていたのを覚えています。翌朝、群馬県の道もない山中に墜落していたことが判明。520名もの犠牲者が出ました。鉄道事故では信楽高原鉄道正面衝突事故や福知山線脱線事故といった、数十名から100人を超える死者を出した鉄道事故もありました。卒業間近の大学生のスキーツアーバスが山中で転落したり、高速道路の擁壁に突っ込んだ長距離夜行バスが真っ二つに裂けた凄惨な事故もありました。平成8年の冬、余市・古平間で起きた豊浜トンネル崩落事故も痛ましい事故で忘れられません。さらには池袋や滋賀・大津のように多数の死傷者を出した事故も記憶に新しいところです。京都のアニメーション会社の放火事件はまた大きな厄災でした。震災では平成7年の阪神淡路大震災で6,000名超、平成23年の東日本大震災で1万8,000名超の犠牲者と桁違いの犠牲者が出ました。北海道でも地震の犠牲者が出、水害の犠牲者は全国各地でありました。日航ジャンボ機事故以外はいずれも平成になってからの事故、災害ですが、まだ他にも多くの不慮の事故、自然災害がありました。高齢者の事故も報じられていますが、免許を返納したことを忘れて事故を起こし、捕まっても事故を起こしたことすら覚えていなかったという事件が報じられていました。高齢者免許の返納は万能ではなかったということでしょうか。

これらのように、いつ、どこで、どんな災難に巻き込まれるかかわからない、ということです。こうした事故や事件の場合、なくなった方たちは、自分がどんな風に命を落としたことさえわからないままこの世を去ったことでしょう。いま命ある私たちは、やはり命あることに感謝する、この命を大事にし、十分に充実した人生を築いていく、そうしたことの重要性を、これらの事件事故は教えてくれるような気がするのです。

水の事故、交通事故、心配したら切りがありませんが、身の安全、命を大切に過ごして下さい。

さあ、高校最後の夏休み

いよいよ高校生活最後の夏休みがやってきました。もちろん、進路を実現するためにフル活用の夏休みにしましょうね。

夏は受験の天王山。
夏を征する者は受験を征す。
受験は団体戦。
現役生は試験当日の朝まで伸びる。



受験生を励ます言葉は昔からたくさんあります。先日の学年集会でも、これから、ここからの頑張りを説かれました。おおいに頑張りましょう。これまでの多くの先輩たちも、この夏からの頑張りで夢を叶えてきたのです。

計画を立てる。やりきる分量の目標を立てる！

規則正しい生活を送る。勉強の開始時間、勉強する時間の総量を決める！

最低限、上記の2点（量と時間）は決めてから夏休みに入るようにしましょう！！

夏休みにはオープンキャンパスに参加する人も多いでしょう。そろそろ入試要項や出願書類の配布を始める大学も出てきます。基本的に、入試要項・出願書類の取り寄せは、各個人で行うということを押さえておきましょう（＊センター試験のみ、出願書類は高校でまとめて取り寄せます。国公立、私大とも、各大学の出願書類は自分で入手します）。そして、出願手続きも自分で行う。受験料の払い込みもです。（＊センター試験のみ、高校からまとめて出願します。ただし受験料の振り込みは各自が行います。）極力親任せにせず、自分の力で、しかも間違いのないように。そこからが受験です。行き当たりばったり、直前になって慌てる、スケジューリングができない・・・では、不戦敗です！

・・・奨学金の出願や小論文のリピートのようすなどを見ていると、なんだか不安だなあ、3年生！